

発行日：2012年4月25日

発 行：地方独立行政法人大阪府立病院機構
大阪府立母子保健総合医療センター

ご挨拶

就任のご挨拶

4月1日付けで総長に就任致しました。藤村正哲前総長と同様にご高配の程を宜しくお願ひ申し上げます。また、常日頃は医療連携にご協力戴き心より御礼申し上げます。

大阪府立母子保健総合医療センターは、ご存知のように府内に於ける周産期医療の専門的基幹施設として、地域の医療機関では対応困難な妊娠婦や低出生体重児、新生児に対する高度な専門医療を行うために1981年に開設されました。当初は周産期医療部門と企画調査部を設置し、母体、胎児および新生児に対する一貫したシームレスな医療を行うと共に、退院後は地域保健機関等との連携による在宅支援を行ってきました。

さらに、1991年には小児医療部門と研究所を開設し、小児医療部門では新生児からの継続的医療と乳幼児に対する高度な専門医療を行い、研究所では母と子のより良い医療に反映させるべく、予防法、治療法が十分に解明されていない母と子に関する疾病などの研究を行っています。当センターは今後ともわが国のリーダーとして周産期・小児医療の発展に寄与していくことが使命であります。

当センターは開設して30年が経過し、地域保健機関等の連携が円滑に図られるようになりましたが、今後は地域医療機関との連携のため更に尽力したいと存じますので宜しくお願ひ申し上げます。当センターを退院した多くの患者さんは継続的な地域の医療支援が必要ですので、地域の先生方と密接な連携体制を取り、患者さんの成長発達を支援することが重要です。地域医療機関と密接な連携体制の構築のために地域医療連携室を2007年10月に開設し、FAXによる初診予約受付がまず開始され、紹介元医療機関への患者受診報告による地域医療機関との連携を行って参りました。またセカンドオピニオンへの対応も開始し、患者さんへのより良い医療の提供に努めています。更に在宅医療支援室、栄養管理室との連携も密にとり、患者さんが安心して地域医療機関に受診し、在宅医療を継続できる体制の整備に努めて参りたいとセンター職員が一丸となって頑張っております。

医療の進歩は日進月歩ですので、医療連携ニュースでは出来る限り最新のセンター情報を地域医療機関に提供させていただきますので、ご利用戴きたいと存じます。

今後とも病診連携の推進に努めて参りますので、皆様方のご意見、ご要望を戴ければと存じます。今後ともご指導、ご鞭撻の程、宜しくお願ひ申し上げます。

基本理念

- 周産期・小児医療の基幹施設として高度で専門的な医療を提供します。
- 患者さん中心の、相互信頼の立場に立った、質の高い医療を行います。
- 地域の保健医療機関と連携して、母子保健医療を推進します。
- 母子に関する疾病の原因解明や、先進医療の開発研究を進めます。

当科は、1991年の大坂府立母子保健総合医療センター小児医療部門開設に伴い、「発達小児科」として診療を開始し、子どものこころと発達を専門に診る診療科として、たくさんのお子さんやご家族と出会ってきました。

このたび、2012年4月より、診療科名を「子どものこころの診療科」と改めることとなりました。診療科名変更に伴い、標榜科も小児科から精神科に変わります。

科名変更のもっとも大きな理由としましては、診療内容の明確化があります。小児医療部門開設当時は、小児内科系は小児内科部門と成長発達部門に分かれ、当科と小児神経科は成長発達部門の中で診療を行っていました。しかし現在は、小児内科部門、成長発達部門、という部門名はなくなり、以前は小児内科部門の中で第1、



子どものこころの診療科
部長 小杉 恵

第2、第3内科となっていた小児内科系の診療科名もそれぞれ消化器・内分泌科、腎・代謝科、血液・腫瘍科と変更されています。そのような流れもあり、より診療内容を明確にするような科名変更が必要となったのです。

診療対象は、発達小児科開設当初から、科名変更・標榜科変更してからも変わりません。具体的には、①発達や発達障害に関する問題、②心身症や不安症状など何らかの心理的な要因が関係していると思われる問題、③慢性疾患などの身体疾患を持つ子どもの情緒と発達、④育児不安や虐待など親子の関係性の問題、を4つの柱と位置づけています。

子どもは大人と違い、日々成長・発達しています。もちろん、その成長・発達のスピードは個々に違っており、置かれる環境や身体の状態などにも影響を受けます。しかし、どのような環境にあっても、その子なりの最大限の発達が保障される必要があり、当科の根幹的な診療目的はそこにあります。これからも、その目的のもとに診療を続けていきたいと考えております。よろしくお願いいたします。

腎・代謝科

診療のご案内

当科は、新生児期から思春期における腎臓病、骨・ミネラル代謝異常症（骨形成不全症、軟骨無形成症、くる病、副甲状腺疾患など）および糖尿病を対象に診療を行っています。腎疾患では、学校検尿などの検尿異常から慢性腎炎や腎不全を早期に発見し、適切な治療を行うことが重要です。当科には2名の腎臓専門医が子どもの腎臓病の治療にあたっています。重症例の治療だけでなく、検尿異常者の精査、治療方針等のご相談に対応しています。

また近年、低出生体重児が成人期に腎臓病、高血圧や糖尿病など様々な成人病を合併する頻度が高くなることが知られています。当科では軽微な蛋白尿ながら、腎生検で進行性の病変を認めた早産児の症例を複数例経験しました。早期介入により成人病発症を遅らせることができます。糖尿病に関しては、2010年から皮下連続式グルコース測定装置を導入しました。3日間、5分毎の血糖を自動的に測定できる装置で、持続皮下インスリンポンプと組み合わせて、幼少児に対しても細かな血糖の調節が可能となっています。また最近増加して

いる小児の2型糖尿病に対しても、積極的に取り組んでいます。

いずれの分野も患者さんや保護者の方に最新の医学情報を提供し、最もよい治療法を共に考え、選択するように努めています。また、長期間の治療を必要とする疾患の子どもには、将来自立した社会人になれるよう長期的な視野にたった治療方針で望んでいます。

初診患者さんは予約後に受診していただくのが原則ですが、ネフローゼ症候群、各種の急性腎炎症候群、溶血性尿毒症症候群（HUS）、糖尿病などで緊急の入院加療が必要な場合は、直接腎・代謝科医師まで電話でご相談ください。可能な限り対応させていただきます。

（副部長 山藤 陽子）



腎・代謝科スタッフ

当センターでは、2009年から看護外来として「排泄・スキンケア外来」を開いています。外来日は第1・3木曜日で小児外科・泌尿器科医師が担当しているストーマ外来に併設しており、医師と連携しながらストーマケアや排泄に関する問題、褥瘡やスキントラブルへの対応や予防的介入など皮膚・排泄ケア認定看護師を中心にケアを行っています。皮膚・排泄ケア認定看護師とは創傷ケア（褥瘡、瘻孔などのスキンケア）、ストーマケア、失禁ケアを専門とする看護師です。

小児の排泄ケアは鎖肛などの先天性疾患によりストーマを造設した患者さんのストーマケアや指導をはじめ、総排泄腔外反症などの永久的ストーマを持つ子どもの成長に伴い活動の場が広がることで生じてくる精神的・社会的问题への援助を行っています。最近は、思春期患者の性に関する問題への介入も必要となっていました。二分脊椎患者さんも多く通院されており、失禁ケアや導尿指導、浣腸や洗腸指導なども行っています。排泄ケアは羞恥心を伴うデリケートな問題を扱うため、時間をかけてじっくり対応しています。創傷ケアでは褥瘡ケアや日常生活の指導、褥瘡予防対策の相談などを行っています。新生児や小児の脆弱な皮膚に対するスキンケアとしてテープかぶれ・おむつかぶれや胃瘻や気管切開口周囲の皮膚トラブルへの対応もしています。1枠30分の予約枠を設けており、ゆっくりと話を聞いたりケアを実施することができます。

看護外来では細やかなケアと共に「先生には言つてないけど実は・・・」など患者さんの本心を聞いたり、子どもとご家族・医師の間の調整をするなど“看護師だからできること”がたくさんあり、看護へのニーズが増えてきているように感じています。これからも患者さんとご家族の日常生活上の問題が最小限になるよう、一人ひとりの状況に合ったケアの提供、支援をしていきたいと思っています。



外来副看護師長
(皮膚・排泄ケア認定看護師)
松尾 規佐



自動精算機

会計案内掲示板と自動精算機が設置されました

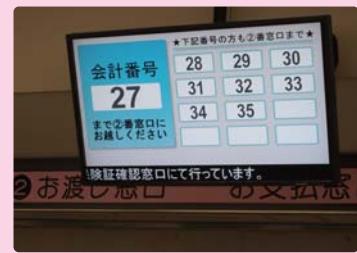
子どもさんを連れての受診の場合、同じ場所で待つということは大きなストレスです。

当センターでは、以前より待ち時間を少しでも快適に過ごしていただけるよう検討してまいりましたが、今年3月に待望の「会計案内掲示板」と「自動精算機」が設置されました。

これにより、掲示板に番号が表示されるまでの間は、アトリウムの遊具で過ごすことも可能となりました。

今後も患者さんの待ち時間短縮に取り組むとともに、お待ちいただく時間を快適に過ごせるような環境整備に取り組んでまいります。

(医事グループ)



会計案内掲示板

今年度、当センターでは、積極的な情報発信を心がけ地域の医療機関の皆様との顔の見える連携充実に努めたいと考えております。イブニングセミナーは、毎月1回（8月は休み）木曜日に各診療科の担当医師により、当センターで取り組んでいる医療内容のご紹介をいたします。事前申込みは不要です。どうぞお気軽にご参加ください。

開催日：毎月第1木曜日（5月、10月、1月は第2木曜日）17時～18時

場所：大阪府立母子保健総合医療センター 研究所大会議室

医療関係者・患者さん対象

年月日	テーマ	担当科	講演者
2012年5月10日	(1) 小児慢性便秘症 (2) 乳児痔瘻・肛門周囲膿瘍	小児外科	(1) 田附 裕子 (2) 川原 央好
2012年6月7日	人工内耳～新たな聴覚の獲得～	耳鼻咽喉科	西村 洋
2012年7月5日	出生前診断に関する最近の話題 (日産婦の新しい見解をふまえて)	産科	岡本 陽子
2012年9月6日	ここまで治る!! 口唇裂・口蓋裂	口腔外科	小原 浩
2012年10月11日	小児の腎臓病に対する生活管理 -運動制限と食事療法-	腎・代謝科	里村 廉一
2013年1月10日	骨延長でここまで治る!!	整形外科	杉田 淳
2013年2月7日	小児消化器疾患と内視鏡検査の実際	消化器・内分泌科	山田 寛之
2013年3月7日	遺伝診療からみた子どもの病気	遺伝診療科	岡本 伸彦

※テーマ、講演者につきましては、変更の可能性がありますことをご了承ください。

※大変申し訳ありませんが、お子様連れでのご参加はご遠慮願います。

医療関係者のみ対象

年月日	テーマ	担当科	講演者
2012年11月1日	小児泌尿器科の診察に際して	泌尿器科	松本 富美
2012年12月6日	乳幼児の発作性疾患	小児神経科	鈴木 保宏

第1回イブニングセミナーが開催されました

4月5日、第1回イブニングセミナーが開催されました。院外からも多数ご参加いただきありがとうございました。セミナー開催時間へのご要望や医師会生涯教育研修制度の申請など、地域の医療機関の皆様が参加しやすいセミナーとなるよう順次改善していきたいと思います。次回は小児外科疾患についてのセミナーです。どうぞ奮ってご参加くださいますようご案内申し上げます。



この広報誌に関するご意見・ご要望は
FAXにて地域医療連携室にお寄せください

地方独立行政法人大阪府立病院機構
大阪府立母子保健総合医療センター
地域医療連携室

〒594-1101 大阪府和泉市室堂町840

T E L : 0725-56-9890 (直通) • 0725-56-1220 (代表)

F A X : 0725-56-7785 • 0725-56-5605 (初診受付専用)

<http://www.mch.pref.osaka.jp>